

Support21



Vol.44 2011.3

Newsletter

ようやく日本での生活基盤を築き始めた時に、
予期せぬことが起きました。



(学習支援室風景)

「火事で焼け出されました。難民認定証の入っているカバンは火中、取りに戻りました。持ち出すことができたのはそれだけ。靴を履く余裕も無く足元の凍るような冷たさから我に返りました」

2月6日深夜、ほんの数時間前に「また来週、勉強にきまーす」とさぼうと21の学習支援室を後にした、アウン・タン・ティさん(ビルマ(ミャンマー)出身)から、罹災の連絡を受けました。そして「さぼうと」からの緊急支援のお願いに多くの方が呼応くださり、お寄せいただいた浄財から55万円を、当座の生活再建のためにとご本人にお渡しました。

アウンさんは、予想外のことに対する驚きながらも、とても感謝されておられます。

その時、ふと胸を過ったことがあります。ビルマの人々は、“施しをすることはとても大事なことで、それは仏様の意にかない、極楽浄土に近づくことが出来る”ことを信じ、競い合い、喜びを持って寄進するのです。

どうしたら皆さまからのお見舞金を彼のプライドを傷つけずに渡すことができるのかが、妙に気になってしましました。

このような時は専門家に伺うのが一番と、田辺寿夫先生(ビルマ人には「シュエバ」の名で親しまれている。ジャーナリスト、元NHK国際局チーフディレクター)に電話をしましたら、何のことは無く「そのまま、皆さまからの気持ちですよとお渡しください。全く問題ありません」とのこと。

まだまだ非日常で、プライド云々の状況ではありませんし、「地獄に仏」の皆さまからの浄財を大切に使ってくださる方と信頼しています。

以前、私は、親しい在日のビルマ人Aさんと「祈り」について、こんなことを話したことを思い出しました。Aさん「毎日、スチーさんが自由に活動ができるよう、そして、ミャンマーに民主化が訪れるよう祈っています」私「お寺に行ってお祈りするの？ または、大使館へのデモのようなことも？」

Aさん「違います！ 魚を買って、池や、川に放しながら、祈るので」

ささやかな、けして豊かとはいえない生活をやりくりして、毎日身銭を切り、生きた魚を買って水に放ちそして祈る。何と素朴で、優しい祈りなのでしょう。

「さぼうと21」を応援してくださる皆さまのご厚意にも通じる温かさと、見返りを求めない姿が重なりました。改めて活動を支えていただいておりますことを心から感謝申し上げます。そして、罹災されたアウンさんご一家に一刻も早い日常生活が戻るよう見守りながら、またご報告致します。



柳瀬 房子
さぼうと21 評議員
難民を助ける会 会長

さぼうと21へのご寄付をお願いします（詳細は、本号最終ページにあります）

会費・寄付のお振込み先

ゆうちょ銀行 00180-7-25470

三井住友銀行 目黒支店 (普) 851872

名義：社会福祉法人さぼうと21

名義：社会福祉法人さぼうとにじゅういち

わたしのルーツ

今見 ムスターファ（学生）
出生国：アフガニスタン

僕は、8年前に難民として日本にやってきました。日本に来る前、アフガニスタンに生まれました。日本みたいに保育園とかなく、7歳から学校へ行くのですが、当時国内で争っていたので、学校とも壊れていて、外で遊ぶこともあまりありませんでした。

来日して初めて、学校に通いました。日本語は徐々にできるようになったが、自分がアフガニスタン人であることがすごく嫌になる時期がありました、というのはテロリストや戦争というイメージしか日本にはありませんでした。歩いていたら、突然パトカーや警察に呼び止められる。日本の友達と一緒にいても顔をみれば自分だけが外国人だということがすぐにわかり取調べられる。最初から自転車どろぼうや不法入国者だと疑われたりするなど、一度ではなく度々あります。もし、僕が白人だったら呼び止められたでしょうか。出身国をいうと、さらに警察の態度が厳しくなります。自分の国では警察に呼び止められるということは、非常に重大なことで恥ずかしいことです。母は宗教上スカーフをかぶっていて、そのことで警察に呼び止められました。そのショックで2週間寝込んでしまいました。マイノリティと言うことで差別を受けていました。

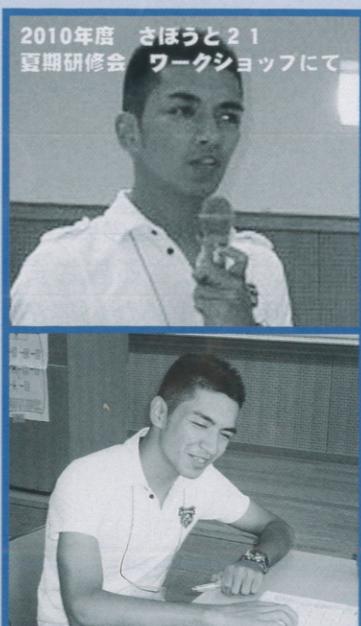
しかし僕は高校からいろんなところにでてボランティアや勉強をしました。そこで気付かされました。祖国のイメージや日本社会をかえられるのは自分だと思い、気持ちが強くなりました。

僕に今できることはまず、ありのままの世界の現状を知ること、それと同時に両親や親戚の生の声を聞いて、祖国についての理解を深めていこうと思いました。

そして、祖国を昔のように緑の多い国にし、観光客も迎えられるような国にしたいと思います。

その自信を力に、国際教養学部でたくさんのこと勉強し、将来は国際機関で働きたいという夢をもちました。平和な祖国を築く力になりたい。それに向けて日々を大切にがんばっていきたいです。

(原文ママ)



アフガニスタン



面積: 652,225平方キロメートル
(日本の約1.7倍)

人口: 3,000万人
(2008年: 国連アフガニスタン支援ミッション)

首都: カブール

人種: パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人
ウズベク人等

言語: 公用語であるダリー語、パシュトゥー語の他、
ハザラ語、タジク語等

(外務省ホームページ 2011年2月現在 参照)

2010年度 支援生とのつどい ご報告

～外国にルーツをもつ私たちの今を語る～

昨年の12月23日、穏やかな陽光がさぼうと21事務所の中に降り注ぐ中、2010年度支援生とのつどいがスタートしました。

会は3部に分かれ、第1部では2010年度支援生3名が日頃行っている研究を報告しました。専門性の高い研究内容をわかりやすく説明していたので、参加者の皆様も興味深く聞き入っていました。

第2部は前半と後半に分かれ、前半では、2010年度の支援生4名が「今があるのは…」というテーマで体験共有を行いました。各自のルーツ、自分にとって忘れられない瞬間、現在の機動力となっている瞬間を参加者に共有しました。

後半では、1995・1997・2009年度卒業の元支援生4名が、自身の社会人としての体験を語り、これから社会人になる後輩へのエールを贈りました。また、今回参加できなかつた2009年度の支援生から送られてきた、この1年の活動を伝える写真とメッセージをスライドショーにして皆様にご覧いただきました。

最後は、学習支援室のボランティア講師と通学生による合唱でした。毎週土曜日開催されている学習支援室では、ボランティア講師と通学生が月に一度合唱の練習を行っています。その練習の成果を披露していただき、会場内は合唱隊の心のこもった温かい歌声に包まれました。

今回で2回目となる支援生とのつどいでしたが、昨年同様大勢の方々にお越しいただきました。今後も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

皆さまから頂いたご支援



CD/SDラジオのご寄贈

昨年11月、長年、さぼうと21の学習支援室でボランティア講師として活動してくださっている梶辰夫様が、CD/SDラジオをご寄贈くださいました。
頂いたCD/SDラジオは学習支援室での学習や合唱の練習などで大活躍しています。
誠にありがとうございました。



ありがとうございました！



IBM様からの資金援助で

プロジェクト購入！

日本IBM株式会社様では、社員のボランティア活動支援の一環として、「コミュニティ・グラント」と称し、社員がボランティアとして継続的に活動している団体に必要機器類購入の資金援助を行っています。
さぼうと21で活動するIBM社員の方々のお力添えで、昨年末にはプロジェクトを購入させていただきました。



前年度に購入させていただいたビデオカメラとあわせて、各イベントで大事に使わせていただきます。

学習支援室 により 日本に定住していくために

「仕事の情報がほしい！」という声にこたえて ～緊急人材育成支援事業説明会～

12月10日金曜日、さぼうと21の学習支援室通学生、関連団体のスタッフを対象に、「緊急人材育成支援事業説明会」を行いました。



同事業は、安定した職業に就くことを希望する方を対象に厚生労働省が実施している事業で、外国出身者でも、定住、永住の在留資格があれば、就労のための職業訓練を受けることができます。

ハローワークが窓口となり、パソコンスキルや簿記、宅建、マイクアップなど、幅広い分野の訓練が受けられます。その事業の内容や手続きの方法などについて、東京労働局の寺澤英邦さんが丁寧に説明をしてくださいました。当日は、予想以上に大勢の外国出身者が参加し、「安定した仕事を得ること」に対する強い関心がうかがえました。「非常に有益な情報を得た」「ハローワークへ行きたいと思った」といった感想を参加者の皆さんからいただきました。

今、学習支援室に通う方々の中からは、永住や帰化についてのご相談も増えています。日本の社会に「お客様」ではなく、「その一員」として

生活していくことを、皆さんが真剣に考え始めていることを実感します。

しっかりとご自分の将来と向き合おうとする皆さんに対して、有益な情報を提供しつつ、書初めや朗読ライブ、バス旅行など、ちょっと楽しいイベントを通じて、楽しい時間も共有していきたいと願っています。



第4回・加藤 タキ チャリティ・コンサート

今回は開催会場が変わり

学習院女子大学のやわらぎホールで行われます
多くの皆さまのご来場をお待ちしております



司会：加藤タキ

2011年5月21日（土）

開演：午後2時（開場：午後1:30）

場所：学習院女子大学 やわらぎホール

東京都新宿区戸山 3-20-1 学習院女子大学2号館B1

東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車、徒歩1分
東京メトロ東西線「早稲田」駅下車、徒歩10分
JR山手線・西武新宿線「高田馬場」駅下車、徒歩15分

料金：全席自由 4,000円

- 出演者プロフィール -



「**Sapatos**」とはポルトガル語で「靴」の意。ボサノバを基調に様々なジャンルの音楽を演奏するアコースティック・ボサノバ・ユニット。全国各地で演奏活動を繰り広げ、その爽やかで洗練されたサウンドは、幅広く支持されています。難民を助ける会のチャリティコンサートにもたびたびゲスト出演し、ご協力くださっています。



「**鈴木厚志**」は国立音楽大学ピアノ科を首席で卒業。ラテングループのピアニストとして活動中にブラジル音楽と出会う。現在、日本では珍しいブラジル音楽専門のピアニストとして全国各地のライブハウスなどで演奏活動を行う。作曲家としても、数々の室内楽曲、ピアノ協奏曲、CMソングなどを手がける。

お問い合わせ

社会福祉法人 さぼうと21

TEL: 03-5449-1331 (受付時間：月～金10:00～18:00)

主催：認定NPO法人 難民を助ける会 / 共催：社会福祉法人 さぼうと21



Newsletter

Support21, Social Welfare Foundation

Vol.44 2011.3

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は ……

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会（AAR JAPAN）を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困っている人がいたらお互いさま」をモットーに、日本国内で政治、宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を
求めています！

■会員：法人会費 50,000円
：個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付中

（会費・ご寄付とも税法上の優遇処置が受けられます）

■会費・寄付のご送金口座

□ ゆうちょ銀行（旧郵便局）：00180-7-25470

加入者名：社会福祉法人さぼうと21

※通信欄に会費または寄付とご明記ください

□ 三井住友銀行：三井住友銀行 目黒支店

（普）851872

名 義：社会福祉法人 さぼうとじゅういち

※三井住友銀行振込後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

編集・発行

社会福祉法人 さぼうと21

TEL / FAX

TEL: 03-5449-1331

FAX: 03-5449-1332

住所

〒141-0021

E-mail

東京都品川区上大崎

info@support21.or.jp

2-12-2 ミズホビル3階

URL

<http://www.support21.or.jp>

